

会派調査(研修)報告書

NO.

令和 6年 12月 2日

胎内市議会議長

八幡 元弘 様

森本 将司 (報告者) 会派名 政和会

代表者名 天木 義人

会派調査(研修)について、下記のとおり報告します。

調査・研修 日 時	自 令和 6年 10月 7日 至 令和 6年 10月 9日 2泊 3日 (3日間)	調査・研修 場 所	富良野市：富良野市役所 占冠村：占冠村役場、ジビエ加工 センター 鹿追町：鹿追町民ホール
調査・研修 事 項	富良野市：インバウンドの取組みについて 占冠村：鳥獣害対策の取組みについて 鹿追町：幼小中高一貫の取組みについて		
調査・研修 出席者(参加者)	天木義人、小野徳重、森本将司、坂上隆夫、渡辺栄六(公明党)		
相手方(対応者)	富良野市：議長 渋谷正文、経済部商工観光課長 石出訓義、観光係長 笹田武志 占冠村：議長 児玉眞澄、農村課長 鈴木智宏、野生鳥獣専門員 浦田剛 鹿追町：議長 上嶋和志、副町長 松本新吾、教育長 渡辺雅人、 学校教育課長 宇井直樹		

調査の結果または概要

富良野市：インバウンドの取組み

年間 77 万泊のうち、外国人が 25 万泊を占める。観光客の大多数がラベンダーシーズンの 7 月に集中していることから、通年で呼び込みできるように、サイクリングやパウダースノーのブランド化に力を入れている。

主に中国への情報発信に力をいれており、テンセント社と業務提携を結んだ。WeChat を最適化することで中国国内への情報発信や市内での電子決済を可能にし、利便性を上げることにより、アジア圏の観光客が近年急激に増加している。

占冠村：鳥獣害対策について

被害の要因は主にエゾシカとヒグマである。エゾシカについては、地元ハンター 13 人で年間 450 頭前後捕獲している。また、猟区を設けアマチュアハンターを呼び込んでいる。

平成 22 年に地域おこし協力隊員を野生鳥獣の専門員として設置して以来、任期終了後も継続して従事していただいているとのことであった。

鹿追町：幼小中高一貫の教育

1-4-4-4 制を敷いており高校 1 年時にはすべての生徒が姉妹都市であるカナダへ短期留学をして、実践的な英語力を身に付けられる教育を行っている。

また、公設塾を設置しておりオンラインを活用した教育もおこなっている。

調査の所見・感想

富良野市：インバウンドの取組み

中国のテンセント社と提携しているが実験的な性格が強く、他の自治体が後追いをしようとしても高額な費用が掛かるとのことだった。ドラマによる国内人気から外国人観光客の誘客へと、うまく転換できていると感じた。

占冠村：鳥獣害対策について

野生鳥獣専門員は、一般職員と比較しても高額報酬設定になっているとのことであった。ヒグマを発見しても、個体の特徴によって人里に近付いても駆除をしないというような共存も考えているということで、ある意味で達観しているように感じました。ジビエ工場は、エゾシカを年間 400 頭捕獲しており、食肉をある程度見込めるからこそ維持できていると思った。

鹿追町：幼小中高一貫の教育

中学から高校への進学はおよそ 5 割から 6 割で、7 割の地元からの進学を目標にしているということだった。鹿追町の児童生徒は、将来的にカナダへ短期留学をするという意識を持っているということ、町民全体で学校を維持していくという強い想いのなかで教育制度の整備が行われてきたと伺い、地域全体で教育、学校を考える大切さを学びました。